

株式会社トモク

2024年3月期第2四半期 決算説明資料

2023年11月



東証プライム
3946

1. トーモクグループの概要
2. 2024年3月期 2Q決算
3. 2024年3月期通期見通し
4. 成長戦略と第2次中期経営計画の進捗状況について
(ご参考資料) ESGの取り組み、会社概要など

トーモクグループの概要

「包む」をイノベーションする。



TOMOKU

製材事業から始まり、木箱及び住宅（床材）事業を開始

段ボール

トモク

(1949年設立)

1949年缶詰用木箱メーカー設立 ⇒ 1956年段ボール箱製造販売開始

- ・原紙を調達・加工し、段ボール製品を製造・販売する專業首位
- ・自社で原紙は製造しない
- ・お客様ニーズに合わせて最新鋭の設備で高品質段ボールを提供

住宅

スウェーデンハウス

(1984年設立)

旧東洋木材企業の創業当時、住宅部材(床板)・プレハブ住宅の製造販売

- ・北欧の高品質省エネ輸入木造住宅メーカー「スウェーデンハウス」が母体
- ・高い技術力やデザイン力を持つ東海地区の分譲住宅メーカー「玉善も傘下

運輸倉庫

トウウン

(1959年設立)

1954年旧東洋木材企業が北海製罐(株)運輸業務を継承

- ・段ボール製品ユーザーである飲料メーカーなど一般消費財メーカーを中心に、段ボール製品の供給と併せて、復路で製品の運搬も受託する形で発展
- ・顧客の立場からはワンストップ・サービスで製品物流を提供

1946年 パネル式組立住宅を建設

(株)トーモクの前身の1社、東洋製罐(株)小樽工場は、戦災復興住宅としてパネル式組立住宅を建設。生産方法にいち早くプレハブ工法を採用し、現在の規格型住宅の走りに。

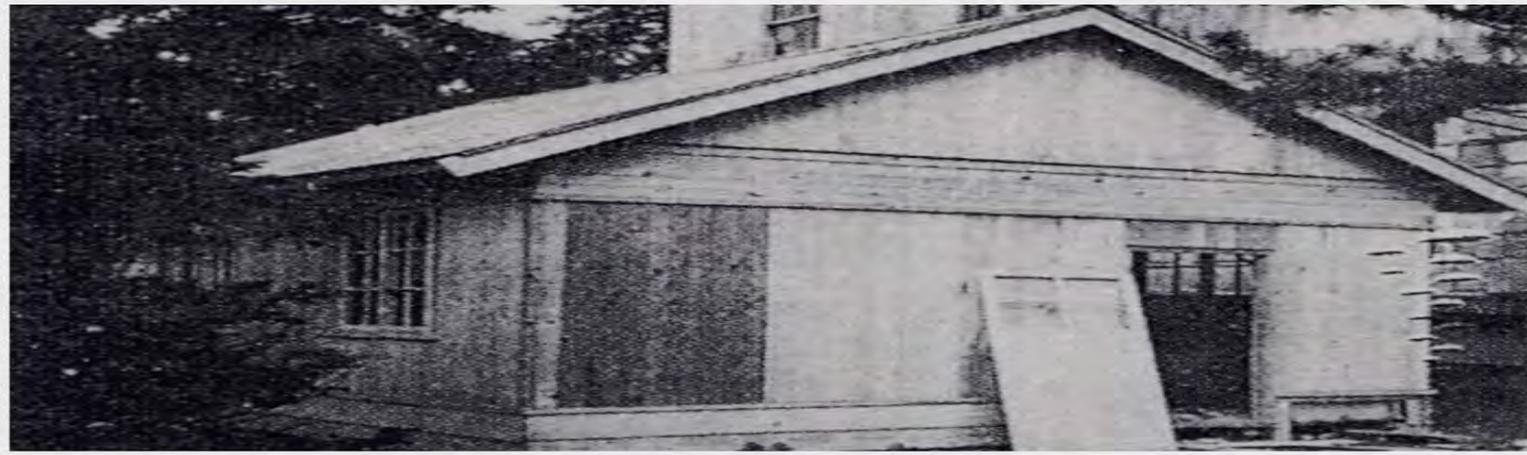
1984年 スウェーデンハウスを設立

2021年 玉善を完全子会社化

旧東洋木材企業(現トーモク)設立の地 (小樽運河)



缶詰用木箱



プレハブ住宅

1954年 旧東洋木材企業（現トーモク）が北海製缶(株)の運輸業務を継承、運輸部を設置、事業開始。

当時、北海道ではカニやサケなどの缶詰製品が増加。

北海製缶は缶詰を、トーモクは缶を入れる木箱を製造し、運輸部は原材料や製品の輸送業務を担当、1959年には運輸部が独立し、東洋運輸(株)を設立。現在に至る。



運輸部



創立当時のトラック

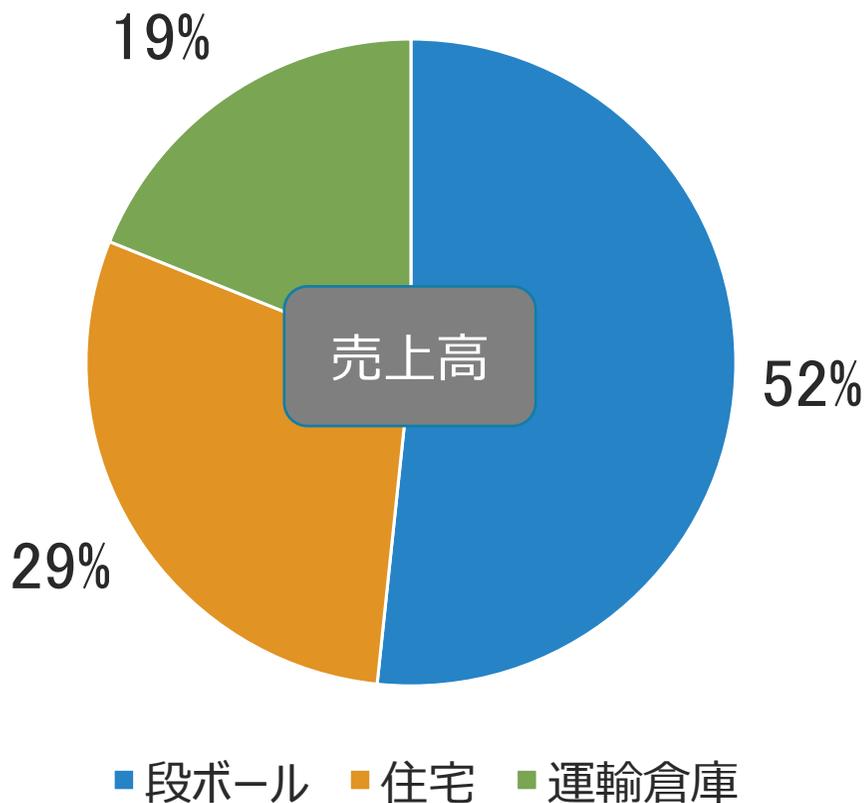


打検作業後ラベル貼り



打検作業後ラベル貼り

段ボール (52%) + 住宅 (29%) + 運輸倉庫 (19%)



(2023年3月期)

段ボール：

- 段ボールシート、段ボールケース、印刷紙器を製造、販売
- 米国・ベトナム**でも現法を通じて事業展開

住 宅：

- スウェーデンで生産された住宅部材を輸入して、高品質注文住宅事業「**スウェーデンハウス**」を展開
- 東海地区で高品質建売住宅「**玉善**」を展開

運輸倉庫：

- 当社段ボール製品の輸送・保管の他、**段ボール製品以外の輸送・保管も実施**



「包む」をイノベーションする。

2024年3月期 2Q決算



TOMOKU

売上高1,023億円 (前年同期比 Δ 3.0%)

営業利益31.0億円(同+9.2%)

段ボール

売上高 (前年同期比+6.9%)、セグメント利益 (同+52.9%)

国内販売量は需要弱く前年同期比減少も、製品値上効果が寄与。海外は米国は物価高騰、ベトナムは成長ペースの鈍化で減収減益。

住宅

売上高 (前年同期比 Δ 22.5%)、セグメント利益 (同 Δ 9億円)

景況感の悪化による展示場来場者数の減少影響で販売棟数減少。資材高騰もあり減収減益。

運輸倉庫

売上高 (前年同期比 Δ 3.3%)、セグメント利益 (同 Δ 15.1%)

主力の清涼飲料水が値上げによる買い控えの影響を受け、取扱数量減少。軽油価格の上昇もあり、減収減益。

2024年3月期 2 Q決算概要：期初想定よりも物流動かず、減収増益。



売上高：段ボールの販売数量、住宅の販売棟数、運輸倉庫の取扱数量、全て停滞で前年同期比減収。
 営業利益：期初予想より減収だが、主力段ボールでの製品値上効果で売上総利益額と率は増加、営業増益へ。

(百万円)

	2023年3月期 1 Q・2 Q	構成比 (%)	2024年3月期 1 Q・2 Q	構成比 (%)	前年 同期比 (%)	期初計画 2023/5/ 公表	期初計画比
売上高	105,553	100.0	102,367	100.0	△3.0	111,000	△8,633
売上原価	89,469	84.8	86,008	84.0	△3.9	-	-
売上総利益	16,083	15.2	16,359	16.0	+1.7	-	-
販売費及び 一般管理費	13,241	12.5	13,255	12.9	+0.1	-	-
営業利益	2,842	2.7	3,103	3.0	+9.2	3,800	△697
経常利益	3,644	3.5	3,559	3.5	△2.3	3,800	△241
親会社株主 帰属四半期 純利益	2,369	2.2	2,217	2.2	△6.4	2,400	△183

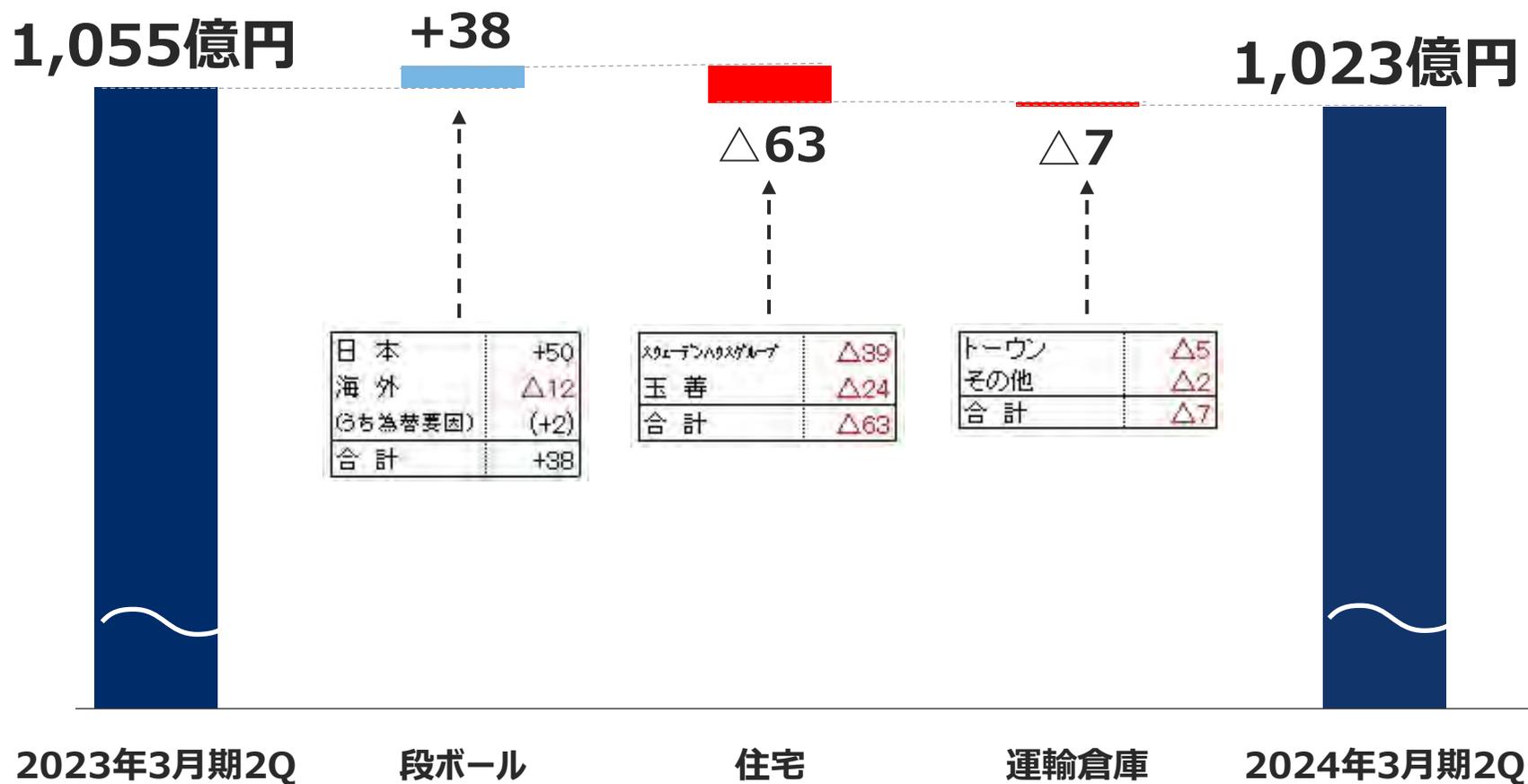
2024年3月期 2Qセグメント別・前年同期比較（上期）

段ボールは、製品値上効果でセグメント利益率6.9%に上昇。住宅は2割以上の減収響く。

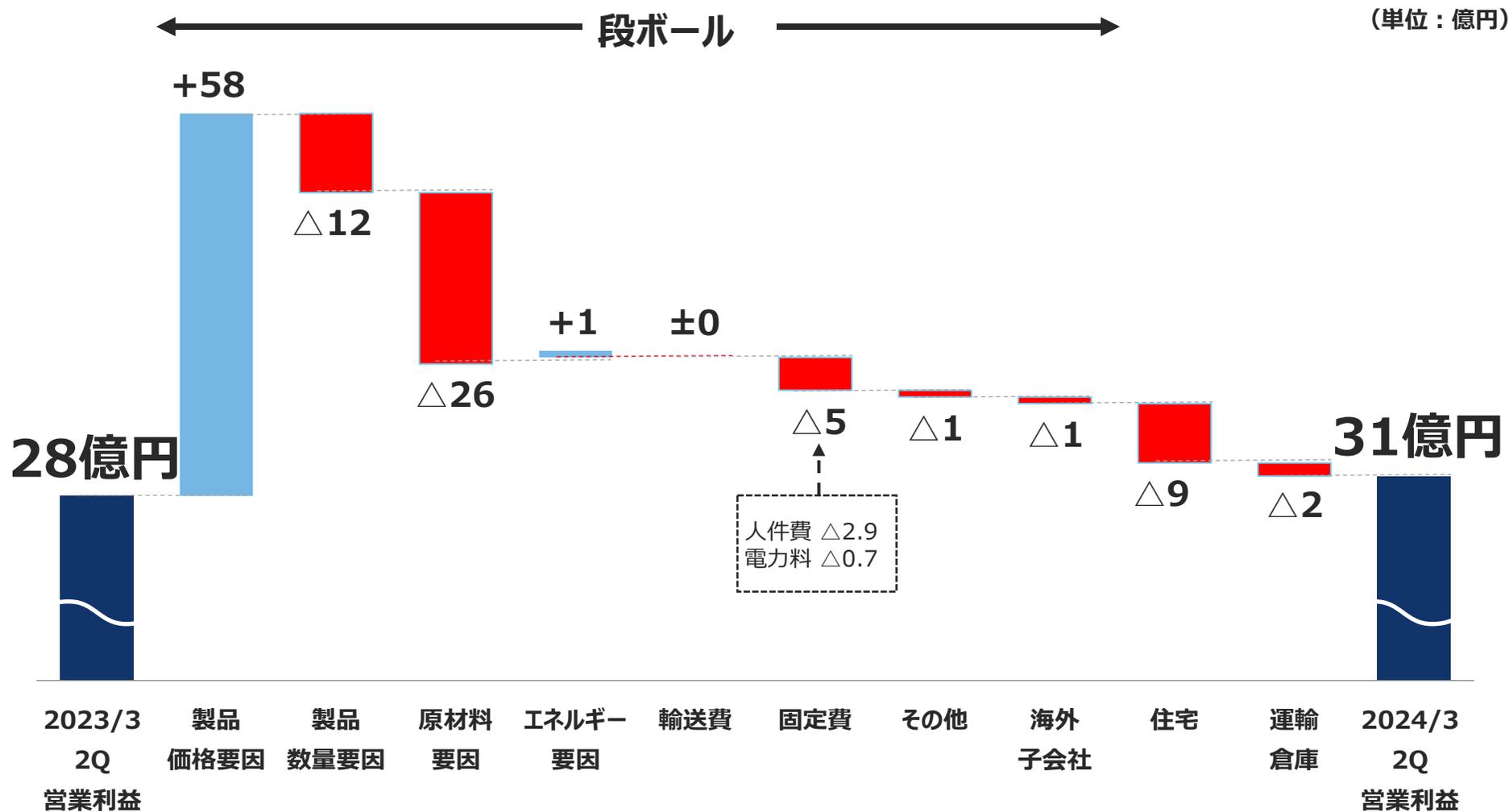
（百万円）

		2023年3月期				2024年3月期		
		1・2Q	構成比 (%)	3・4Q	構成比 (%)	1・2Q	構成比 (%)	前年 同期比
段ボール	売上高	55,663	52.7	54,276	50.6	59,493	58.1	+6.9%
	セグメント利益 (利益率)	2,674 (4.8%)	-	2,270 (4.2%)	-	4,088 (6.9%)	-	+52.9%
住宅	売上高	28,031	26.6	34,606	32.3	21,732	21.2	△22.5%
	セグメント利益 (利益率)	△563 (-)	-	2,600 (7.5%)	-	△1,481 (-)	-	△918
運輸倉庫	売上高	21,858	20.7	18,382	17.1	21,141	20.7	△3.3%
	セグメント利益 (利益率)	1,086 (5.0%)	-	246 (1.3%)	-	922 (4.4%)	-	△15.1%
合計	売上高	105,553	100.0	107,264	100.0	102,367	100.0	△3.0%

(億円)



営業利益増減要因分析（前年同期比）



売上債権は季節変動と段ボール事業の値上げの影響で増加、棚卸資産は住宅事業での物件や分譲用地先行投資が影響し、全体として資産は6%増加。資金は短期借入金で充当。

(百万円)

資産の部	2023年9月末	前期末比 増減
流動資産	90,608	+6,980
現預金	13,365	△1,650
売上債権	42,645	+5,123
棚卸資産	27,396	+3,268
固定資産	116,546	+4,796
有形固定資産	95,868	+1,271
投資その他の資産	19,431	+3,713
資産合計	207,155	+11,777

負債の部	2023年9月末	前期末比 増減
流動負債	75,805	+8,164
支払手形・買掛金	22,959	+166
短期借入金	15,076	+6,596
一年以内の 長期借入金	22,554	△1,285
固定負債	47,338	+309
長期借入金	37,504	+228
純資産	84,010	+3,303
(内自己株式)	△4,184	+15
負債・純資産合計	207,155	+11,777

段ボール工場設備や分譲用土地への投資や子会社株式の取得に伴い、投資活動のCFは拡大。資金は借入金を充当。

(百万円)

	2023年3月期 1・2Q	2024年3月期 1・2Q	備考
現金・同等物 期初残高	16,568	14,882	
営業活動CF	1,344	279	売上債権の増加額 △4,867 (前期は△3,339) 棚卸資産の増加額 △3,147 (前期は△648)
投資活動CF	△2,392	△6,270	有形固定資産取得 △4,081 子会社株式の取得 △2,212
フリーCF	△1,048	△5,991	
財務活動CF	△1,981	4,123	短期借入金の純増減額 +6,582
現金・同等物 期末残高	13,823	13,231	



「包む」をイノベーションする。

2024年3月期通期見通し



TOMOKU

**2024年3月期下期
(見通し)****段ボール**

インバウンドによる需要増、年末年始にかけて人の動きに期待。
買い控えの動きは変わらず。

国内段ボール業界の上半期実績は前年対比95.5%。
下期もこの流れから大幅な変化はなし。

住宅

スウェーデンハウスは展示場の集客数が持ち直しへ。
玉善は潤沢な土地の購入による販売増を見込む。
値上げによる消費マインドの低下が懸念。

運輸倉庫

主力の飲料の在庫は適正化へ。
2024年問題の前倒し、ドライバー人件費及び庸車確保のためのコスト増。

売上高2,350億円（+10.4%） 営業利益115億円（+54.3%）

主力の段ボールでの価格上昇効果の継続で、過去最高利益の更新を見込む。

	2023年3月期 (実績)	構成比 (%)	2024年3月期 (計画)	構成比 (%)	前期比 (%)
					(百万円)
売上高	212,817	100.0	235,000	100.0	+10.4
営業利益	7,452	3.5	11,500	4.9	+54.3
経常利益	7,983	3.8	11,600	4.9	+45.3
親会社株主帰属 純利益	5,251	2.5	7,700	3.3	+46.6

- 段ボール事業 : 価格改定効果が持続し、下期も全体の収益を支える見通し。
 住宅事業 : あらゆる世帯に対応する新商品の開発、ピーク時の4Qからの回復に期待。
 運輸倉庫事業 : 物流の回復とコストの価格転嫁で利益は回復へ。

(百万円)

		2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (計画)	前期比
段ボール	売上高	109,939	125,000	+13.7%
	セグメント利益 (利益率)	4,944 (4.5%)	7,900 (6.3%)	+59.8%
住宅	売上高	62,637	66,000	+5.4%
	セグメント利益 (利益率)	2,037 (3.3%)	2,600 (3.9%)	+27.6%
運輸倉庫	売上高	40,240	44,000	+9.3%
	セグメント利益 (利益率)	1,332 (3.3%)	1,900 (4.3%)	+42.6%
合計	売上高	212,817	235,000	+10.4%

- 【方針】
- ・中長期成長のためのM&Aや設備投資を優先し、収益に応じ配当額引上げ
 - ・安定的に100億円以上の営業利益を見込める企業体質が見えてきたので、配当性向の基準を設定し、株主還元を高めていく

*** 2023年3月期** : 配当性向**18.8%** 年**60円**（中間**28円**+期末**32円**）

*** 2024年3月期（予想）** : 配当性向**14.9%** 年**70円**（中間**35円**+期末**35円**）

	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3	変化
					(期初計画)	
中間	20	20	25	28	35	+7円
期末	25	25	27	32	35	+3円
合計 (円)	45	45	52	60	70	+10円
配当性向 (%)	16.1	15.0	14.3	18.8	14.9	-



成長戦略と第2次中期経営計画の進捗状況について



TOMOKU

パーパス（存在意義）

「包む」を通じて、
「包む」をイノベーションして
社会のサステナブルな成長に貢献する。

省エネを追求する段ボール・住宅（スウェーデンハウス）
を中心に、環境を改善しながら企業価値を高めていく。

ミッション（使命）

お客様の大切な商品を包み、消費者の皆様にとっての価値を包み、
人々の豊かな暮らしを包み、大切なものを包んで届ける。

ビジョン（あるべき姿）

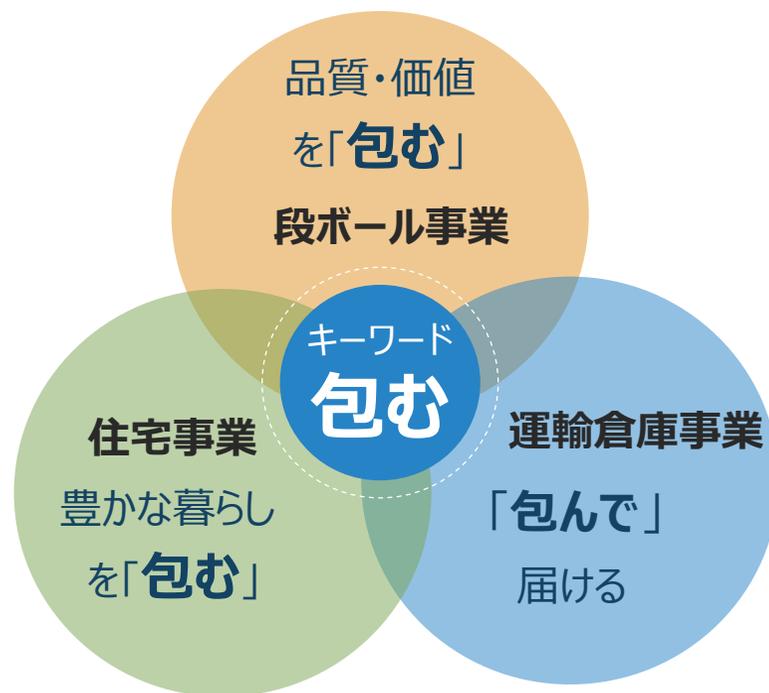
- 「段ボール」「住宅」「運輸倉庫」の3事業で「包む」をコンセプトに
経営資源を最適に配分、付加価値を高めて
「環境に優しい」高品質経営を展開する。
- 高い倫理観と強い責任感を持って「環境に配慮した」事業活動を通
じて、社会の持続的発展に貢献する。
- 新たな事業の構築に取り組み企業価値の更なる向上を図る。

長期経営目標（2029年3月期）

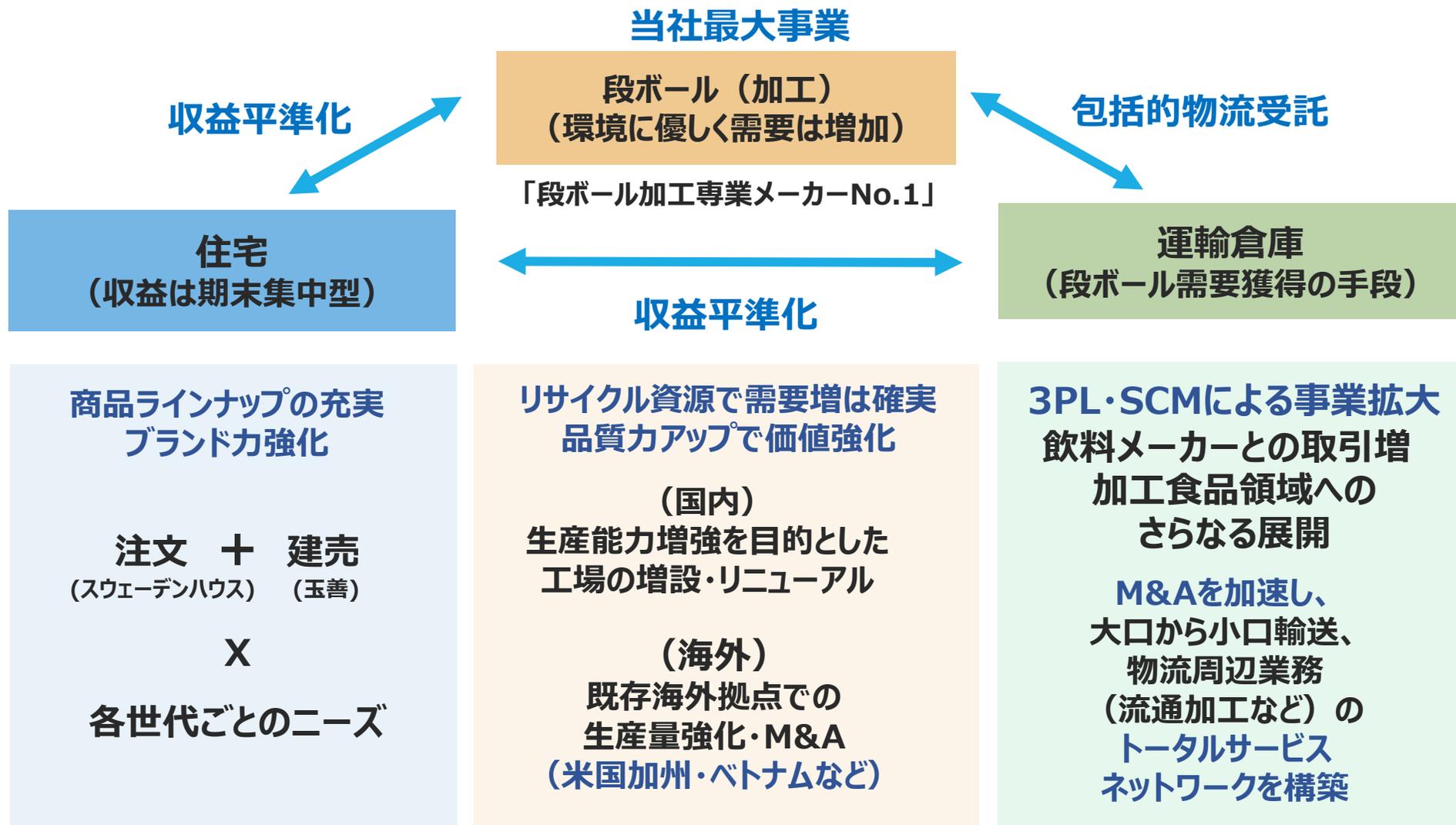
売上高 3,000億円以上

ROE 12%以上

日常を包む ⇒ 社会のサステナブルな成長



「3部門間の事業・収益の協力」により、当社の企業価値向上を実現



「段ボール加工専門メーカーNo.1」として、長期的需要を見据えて、工場新設・移転拡張、最新鋭機械の投入などにより生産能力を拡大。また、M&Aにより、事業領域拡大を狙う。

新青森工場（移転）

投資額64億円

青森県青森市
(2024年1月完成予定)

敷地面積33,000㎡（約10,100坪）
建物面積16,900㎡（約5,100坪）



(株)コスモ工業 子会社化

弊社長野工場に隣接

長野県茅野市
(2023年4月株式取得)

敷地面積9,470㎡（約2,870坪）



子会社タイヨー(株) 工場用地取得

神奈川県伊勢原市
(2022年12月取得)

投資額43億円

敷地面積20,000㎡（約6,200坪）

EC業界：環境負担軽減や物流問題への対応で包装手段の軽量化・省資源化が課題

段ボールを使用した封筒など軽い梱包材のニーズが増加するものと想定

当社千葉紙器工場で国内初の片面段ボール封筒の製造を開始

全量輸入に依存していた大手通販会社から受注を開始（2023年7月～）

⇒ 2～3年後に年間売上目標20億円をめざす

圧倒的な省人化を実現した専用複合機ライン

インクジェットプリンターによるオンデマンド印刷



現地紙器製造販売会社（カンタン社）を完全子会社化

ベトナムで段ボール事業と紙器事業を展開、現地での事業基盤を強化
経済成長著しいASEANエリアでの需要回復、更なる成長を見込む

ベトナム・ドンナイ省

カンタン社：ベトナムで広範に紙器事業を展開



名称	Khang Thanh Manufacturing Co., Ltd.
所在地	ベトナム社会主義共和国 ビエンホア市 アマタ工業団地
事業内容	紙器製造販売
設立年月日	2005年3月25日
売上高	VND263,627百万（1,581百万円）

米国は魅力的な世界第2位市場

米国・カルフォルニア

SOUTHLAND BOX COMPANY
2021年12月落成 生産能力 2.0倍

新規設備を活かした深耕営業による拡販

<2024年3月期通期見通し>

販売量：+1.1%（前期比）

売上高：△8.9%（同上）

営業利益：+12.3%（同上）



米国仕様の
最新鋭機械（TM450）



お客様の多様化したニーズに対応して、受注棟数獲得を強化

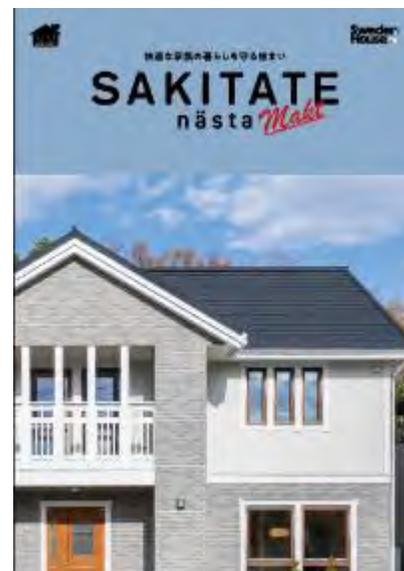
コストを抑えたセレクト型注文住宅「ヘンマベスト」

170から220プランにプラン数を増強



新商品「SAKITATE nästa makt (サキタテ ネスタ マクト)」を発売

更に高いレジリエンス強化を実現



分譲住宅販売の強化

- ・北海道当別町の「スウェーデンガーデン当別太美」の第2期分譲の販売促進
- ・全国の宅地購入を積極的に行い、分譲住宅販売の強化

研修施設の移転

有明研修センター：lär centrum（ラルセントルム） 263m²（約80坪）

営業・設計・工事・お客様センターへの建具の歴史や知識・補修等の実技研修を実施

ビジネススタイルを進化させ、受注棟数獲得を強化

土地先行取得の分譲住宅販売 → 土地から開始する「条件付き宅地販売」へ

(メリット)

- ・潜在顧客の早期発掘、お客様の要望に沿った建築が可能
- ・土地取得から販売・引渡までのサイクルが短期化（1年以内）、物件鮮度の維持及び支払利息の圧縮を実現

条件付き宅地販売の推進へ名古屋市及び近郊に住宅展示場を新たに設置

- ・当社フラッグシップモデルの売り込みによる需要喚起
- ・高い技術力・デザイン力「玉善品質(TAMAZEN QUALITY)」を改めてアピール



環境負荷を軽減（EVトラックの採用など）、運転手及び庸車確保のための価格転嫁



収益力強化へ向けて

- ・気候変動や景気動向への事業耐性力を高める

主力の飲料取扱高増加に加えて、加工食品など取扱分野を多様化

- ・付加価値を強化し、料金単価の向上を図る

主要エリアでの自社拠点の構築とネットワーク網の強化

M&Aによる取扱い輸送サービスの範囲の拡大も視野

2024年問題への対応

- ・労働条件の改善

収益力強化を賃金改善へ

- ・輸送体制の効率化

連結トラックの採用、中継輸送の効率化（現状の再検証）など

第2次中期経営計画（2023年3月期～2025年3月期）：サステナブル成長へ事業領域を拡大

売上高を中心に企業価値向上がみられるが、利益率についてはコスト上昇の影響で、進捗にやや遅れ

	2023年3月期 実績		2024年3月期 予想		第2次中期経営計画最終年度目標 (2025年3月期)				差異
					2022年5月計画値		2023年5月修正値		
売上高	2,128億円	100%	2,350億円	100%	2,500億円	100%	2,500億円	100%	+372億円
段ボール	1,099億円	51.7%	1,250億円	53.2%	1,250億円	50.0%	1,320億円	52.8%	+221億円
住宅	626億円	29.4%	660億円	28.1%	800億円	32.0%	730億円	29.2%	+104億円
運輸倉庫	402億円	18.9%	440億円	18.7%	450億円	18.0%	450億円	18.0%	+48億円
営業利益率	3.5%		4.9%		5.8%		5.8%		+2.3pp
段ボール	4.5%		6.3%		7.0%		6.8%		+2.3pp
住宅	3.3%		3.9%		4.0%		4.5%		+1.2pp
運輸倉庫	3.3%		4.3%		5.0%		5.0%		+1.7pp
ROE	6.7%		8.9%		10.0%		10.0%		+3.3pp

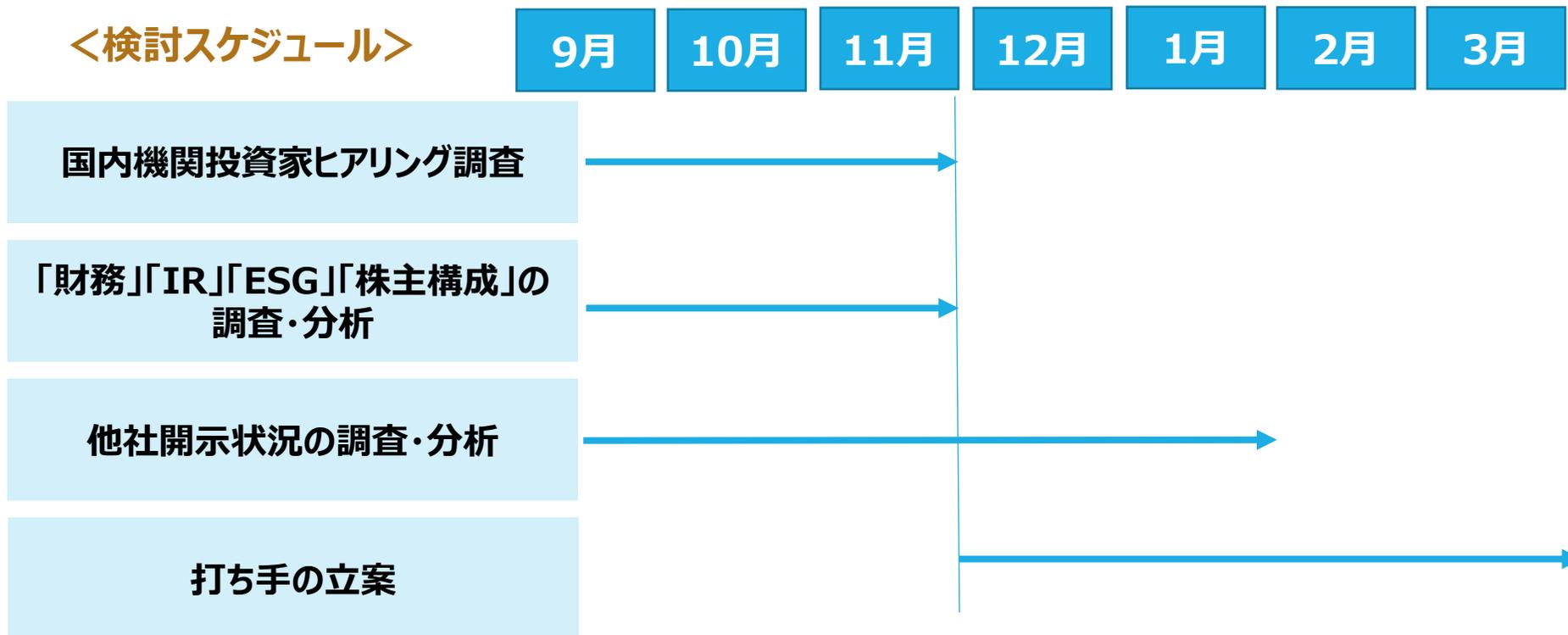
総額159億円 (設備投資累計136億円 + M&A23億円) を段ボール事業中心に投資

	段ボール	住宅	運輸倉庫
設備投資	<p>400億円 (海外工場含む)</p> 	<p>50億円</p> 	<p>50億円</p> 
	<p>累計：116億円 減価償却費：81億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産能力強化 工場用地取得 工場建物新設 最新鋭設備導入 ・環境対応 ボイラー燃料を重油からガスへ LED、バッテリーリフト 	<p>累計：11億円 減価償却費：7億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルハウス建築 	<p>累計：9億円 減価償却費：22億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両増車、入替
M&A	<ul style="list-style-type: none"> ・Khang Thanh (ベトナム) ・コスモス工業 (日本) 23億円 		

弊社の株式市場での評価は、PBR1倍割れが継続、企業価値向上は最重要課題の一つ
2023年11月28日現在、当社株価2,188円（実績PBR0.4倍、予想PER4.6倍）

- ・9月から、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、現状分析や改善に向けた方針や具体的施策を検討中
- ・2024年3月期決算説明会での開示を予定

＜検討スケジュール＞



2Q決算説明会
(11月29日)

「包む」をイノベーションする。

ご参考資料① ESGへの取り組み



TOMOKU

グループ経営理念・方針体系

品質・価値・暮らしを「包む」

High Moral
High Quality
High Return

CSR方針

環境方針

安全衛生方針

人権方針

調達方針

品質方針

コーポレートガバナンスガイドライン

持続可能な調達ガイドライン
持続可能な木材・紙調達ガイドライン

グループ行動基準

サステナビリティ推進体制

代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置
サステナビリティの課題を定期的に審議し取締役会に報告

取締役会

サステナビリティ委員会

サステナビリティ検討プロジェクトチーム

TCFD開示プロジェクトチーム他

マテリアリティ

地球環境保全 多様な人材の活躍と人権尊重 ガバナンス強化
地域コミュニティの発展 製品やサービスの安全・安心

GHG 2030年までに2013年比で50%削減（Scope1+2）：再生可能エネルギー導入や効率化・プロセス改善

段ボール

対象：生産設備中心

再生可能エネルギー由来電力の導入、燃料の重油から天然ガスへの切り替え
LED照明への切り替え、バッテリー式フォークリフトの導入

住宅

対象：スウェーデンハウス（注文住宅）、玉善（建売住宅）

居住時のエネルギー消費量を2016年省エネ基準比 CO2・50%削減



（中長期）教育・医療・福祉を充実させたい人と環境にやさしい街づくりに貢献

スウェーデンヒルズ（札幌市郊外のスウェーデンハウスの街）の横展開

森林保全・植林によりエリア内のCO2発生量を吸収

今後、他の分譲エリアのCO2吸収・削減活動のお手本に

運輸倉庫

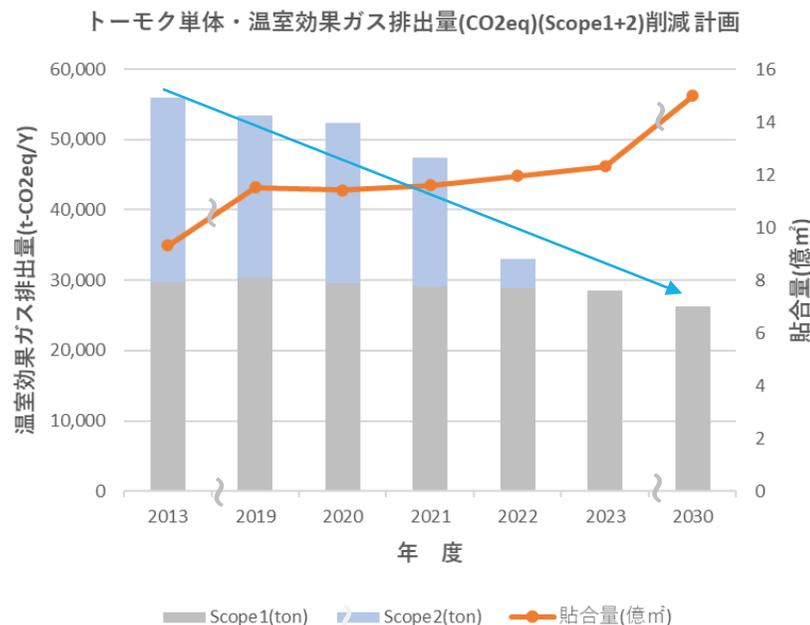
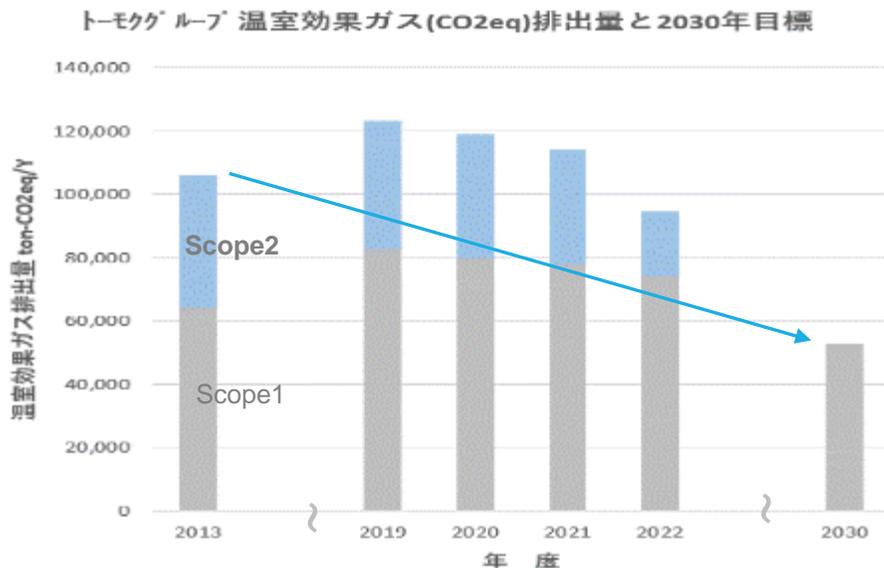
対象：倉庫設備と輸送体制の省エネルギー化

EV・ハイブリッド車の導入、効率的な配車計画、実車率の向上

グリーンプロジェクト活動（省エネ運転・アイドリングストップ等による燃費向上など）、

バッテリー式フォークリフトの導入

温室効果ガス（GHG）▲50%目標に向けた取組み状況及び計画



温室効果ガス（GHG）削減 取組状況

- 再生可能電力の導入 …………… 2022年3月期：トモク5工場、トウンTLP群馬、TLP札幌で導入済
2023年3月期：トモク7工場、トウン3倉庫で導入済
2024年3月期：トモク全17工場導入完了（2023年4月より実施済）
- ボイラー燃料の重油 ⇒ ガス化 …………… 13工場ガス化済
- LED・バッテリーリフト・無人リフト …………… 2021年4月以降 順次更新

- スウェーデンハウス …………… 2021年3月期△37% ⇒ 2022年3月期△38% ⇒ 2023年3月期△39% ※1
居住時のエネルギー消費量 (全着工物件の平均)
- HUS ECO ZERO×ずっともソーラー …………… 2020年9月8日より提供開始

※1:(削減率)BEI=設計一次エネルギー消費量/基準一次エネルギー消費量

持続可能な原材料100%に向けた取組み

・FSC認証原紙の購入

取引先へのSAQ(Self-Assessment Questionnaire)の実施
段ボール原紙は、原則、FSC認証*された原紙を購入

*FSC(森林管理協議会)認証: 合法性、労働者・先住民の権利、地域社会との関係など
広範な視点から森林管理を認証する制度

・森林資源の保全に配慮した住宅材購入

住宅事業(スウェーデンハウス)では、森林資源の保全に配慮した事業を展開

- ・森林資源が厳しく管理されている北欧材を使用したパネル製造・組み立て
⇒ 森林資源・生態系保全、地球温暖化防止に貢献する住宅
- ・「木材調達方針」で持続可能な森林経営を支援
- ・木材産地や樹種等に基づく木材評価体系を作成、森林保全に配慮した購入

リサイクル(段ボールのリサイクル、住宅建築現場での廃棄物処理など)

サーキュラーエコノミーの潮流を認識、廃棄物削減、リサイクル化を率先して推進

・段ボール事業

段ボール端材は段ボール原紙に100%再利用、リサイクルマーク表示率約98%

・住宅事業

住宅建築現場での廃棄物発生を削減するため、使用パネルの改良にも工夫

<u>地球温暖化防止</u>	温室効果ガス削減 50% (2030年)	
<u>生物多様性保全</u>	持続可能な原材料 100% (2030年)	
<u>人権の尊重</u>	人権研修の実施 グループ従業員100%	
	人権DDの実施 グループ会社100%	
<u>サプライチェーン※</u>	サプライチェーンSAQの実施	
<u>労働安全衛生</u>	災害ゼロに向けた職場環境整備 労働災害 0件	
<u>ダイバーシティ&インクルージョン※</u>	女性従業員比率 20% (2030年)	2022年度 19.1%
	女性管理職比率 10% (2030年)	2022年度 2.5%
	男性育児休暇取得率 100%	2022年度 66.7%
	有給休暇取得率 70%	2022年度 58.8%
	障がい者雇用率 3.0%	2022年度 2.3%
<u>地域コミュニティの発展※</u>	全工場地域住民との交流、小中学生を対象とした社会環境教育のための工場見学会実施	

※トーモク単体

【対象事業とシナリオ】

昨年は、当社グループにおいて売上・営業利益の大きい段ボール・セグメントのトモク単体のみを対象としましたが、本年は、質と量の拡充をはかる観点から、トモク単体に、国内段ボール・紙器関連グループ会社を追加し、2つの将来シナリオ（4℃シナリオ及び1.5℃シナリオ）を用い、2021年度実績を基準に2030年時点での影響を考察しております。今後、運輸倉庫セグメント、住宅セグメントにも分析を広げ、継続してシナリオ分析を実施することで、その精度を高めていく予定です。

【事業インパクトのシナリオ毎分析】

2030年想定を2021年度実績に当てはめると、1.5℃シナリオでは、政府による炭素税等の規制強化や、再エネ電力価格上昇によるリスクが大きい結果となりました（営業利益で約-19%）。ボイラー等に使用する化石燃料の削減が一層重要になります。

一方、4℃シナリオでは、洪水被害によるリスクが大きい結果となりました（営業利益で約-15%）。BCP対応の強化が必須となります。

【機会を捉えた取組み】

プラスチック規制は、代替材としての段ボール・紙器用途を広げる可能性があります。また、循環型社会への移行は、段ボール素材の優れた環境性能への関心を高め、新たな需要が創出される可能性があります。トモクグループは技術・デザイン開発に注力することで事業機会を捉え、企業価値の向上に努めて参ります。



ご参考資料② 会社概要など



段ボール事業、住宅事業（スウェーデンハウス）、運輸倉庫事業

会社名	株式会社トーモク 英文社名 TOMOKU CO.,LTD.
事業内容	段ボール事業、住宅事業、運輸倉庫事業など
所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-2 丸の内三井ビル
設立	1949年5月27日 缶詰用木箱のメーカーとして北海道に設立。その後段ボール事業に転換、全国に事業拡大
代表取締役	代表取締役社長執行役員 中橋光男
資本金	136億6987万円（2023年3月末現在）
業績	売上高 212,817百万円 営業利益 7,452百万円（2023年3月期）
従業員数	1,094名（単体）3,717名（連結）（2023年3月31日現在（臨時従業員を除く））
証券コード 上場市場	3946／東証プライム市場、札証
主要工場	17ヵ所 館林、岩槻、厚木、札幌、神戸、小牧など
連結子会社 19社	国内 16社（住宅事業：スウェーデンハウス、運輸倉庫事業：トーウンなど） 海外 3社（段ボール事業：アメリカ、ベトナム、住宅事業：スウェーデン）

各分野で同業他社との差別化、独自の視点・展開で成長を追求

段ボール

「段ボール加工専門メーカー」として、「加工力」と「供給力」を強化し、差別化
物搬に不可欠な代替の利かない今後も有望な素材
高品質・高生産性を武器に需要増を確実にカバー
新パッケージ考案による新分野参入も展開

住宅

高品質な環境共生・省エネ住宅「スウェーデンハウス」ブランドの深化で
付加価値の高い住宅の提供
各世代に併せた商品プランの多様化と高級志向者向けの外構デザイン・
インテリアを含めた提案力の強化

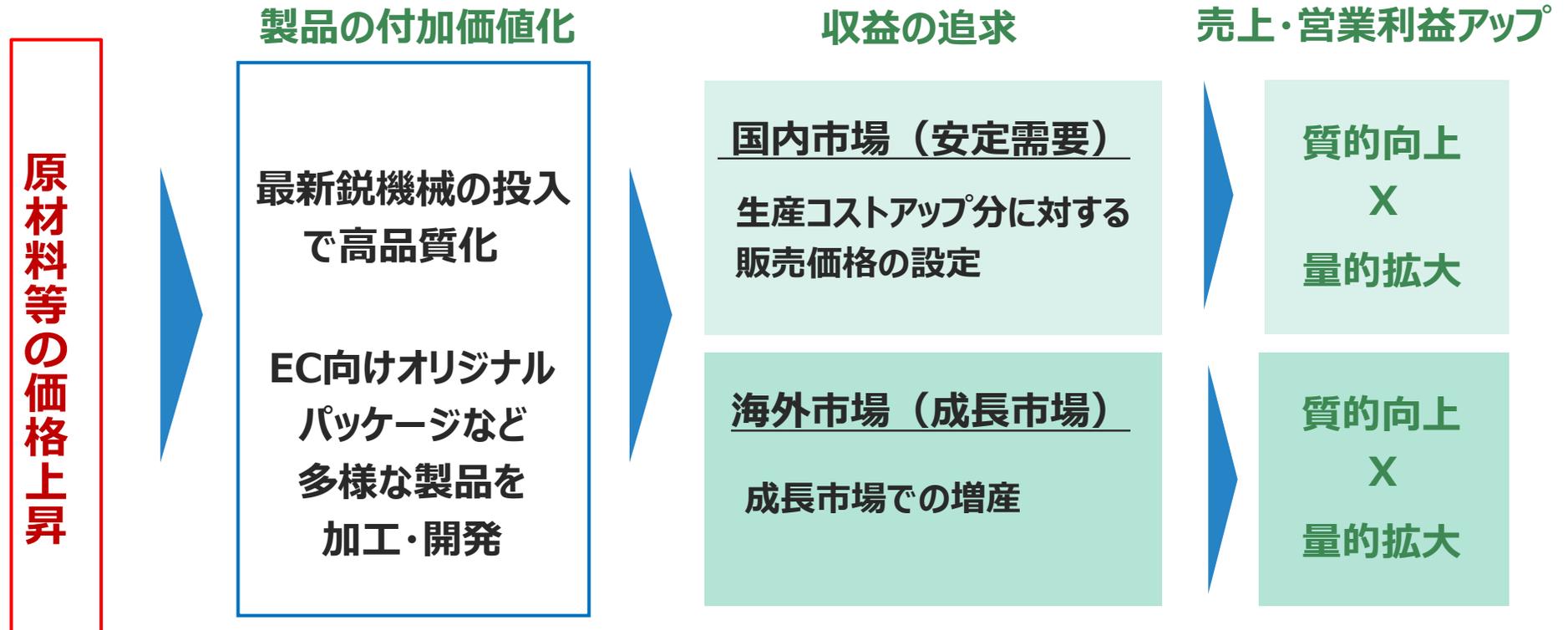
運輸倉庫

「段ボール」供給とセットで、飲料など消費財中心に運搬業務の受託拡大
川上～川下まで一貫した物流を受託
2024年問題への対応

段ボール事業：「加工力」「供給力」を強化して収益力を強化

当社ポジショニング：「段ボール加工専門メーカーNo.1」 = 段ボール「加工力」No1

リサイクル可能な運搬素材として、段ボール需要の確実な増加を想定。
 原材料・エネルギーコスト上昇は、**価格転嫁**で対応。



顧客満足度と生産性向上へ集中投資
消費者に近接した場所へ工場を配置。顧客へ機動的なサービスを提供



高い顧客満足度と採算性を両立

効率的な生産・物流

- ・業界最速スピードの最新鋭の高速貼合機
(大手機械メーカーと共同開発)
- ・迅速かつ正確なデリバリーを支える物流システム
(運輸倉庫事業会社を活用)

工場は、
最大消費地の
関東中心に立地
(段ボールは納期厳守)



工場と営業部門が一体化

- ・工場が生産状況やコストを考慮し受注判断
- ・採算性と効率性を追求した受注と生産体制

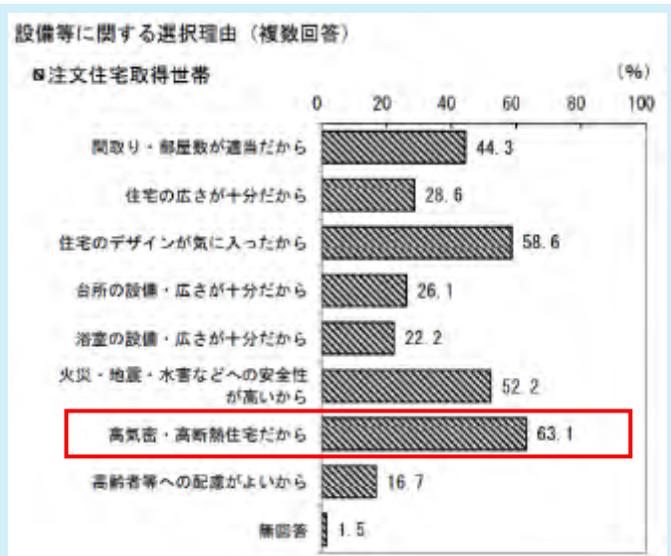


40年間選ばれてきたスウェーデンハウスの特徴：「高気密・高断熱の省エネ住宅」

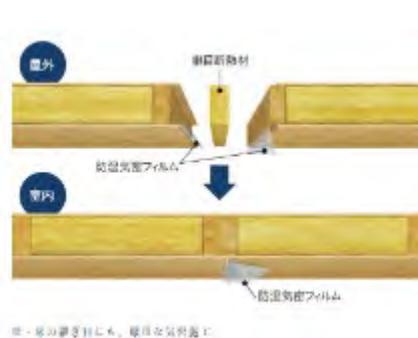
- ガラス・枠でダブルの高い断熱性を実現する**木製サッシ3層ガラス窓**
- 「国が定める省エネ住宅（2016）」と比べ、**消費電力28%減を誇る省エネ効果**
※オール電化、延床面積120㎡（6地域）の建物で試算
- 住宅全体の空気が2時間に1回入れ替わる**24時間熱交換型換気システム**

■ 最新の省エネルギー基準を大きくクリアする高い断熱効果

- 地震の揺れを「面」で受け止め、分散させることで高強度を実現した**モノボックス®構造**
- 一棟一棟の断熱性能を表す数値を表示する**安心の性能保証**
- **50年間無料定期検診**によるアフターメンテナンスサービス



国土交通省住宅局の調査によると、注文住宅取得世帯では、求める設備、選択理由として「**高気密・高断熱住宅**」が**63.1%で最も多い**



※・窓の構造にも、様々な気密構造。



※・断熱樹脂材は、高気密・高断熱を実現するための重要な要素です。断熱樹脂材は、高気密・高断熱を実現するための重要な要素です。



※・断熱樹脂材は、高気密・高断熱を実現するための重要な要素です。断熱樹脂材は、高気密・高断熱を実現するための重要な要素です。

出所：国土交通省 住宅局「令和3年度住宅市場動向調査報告書」

オーダーメイド式注文住宅ならではの事業特性を、最大限活かして、WEB完結型営業を推進、高級注文住宅志向の富裕層に対する訴求力を強化

バーチャル展示場見学



オンライン相談会



3Dウォークスルー動画配信



専用アプリの提供



トウンTLP札幌センター（2021年11月オープン・北海道）

顧客（飲料メーカー）との協働センター稼働を皮切りに、取扱貨物の多様化へ展開

⇒ 飲料メーカーとの関係強化から運輸倉庫事業の取扱量増加（ビジネス強化）に直結。

2023年3月期決算においては通年化効果



事務所棟は
「スウェーデンハウス」仕様



お客様との関係維持・強化へ
「協働物流センター」の開設
を積極的に提案。

（お客様のメリット）

段ボールと
輸送手段（トラック）を
当社のワンストップサービスで確保

協働物流センターの開設
をご検討のお客様が増加中。
現在：札幌12社、群馬7社

免責事項

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2023年11月現在において利用可能な情報に基づいて、当社により2023年11月現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

株式会社トーモク

東証プライム：証券コード 3946

連絡先

mail:3946ir@tomoku.co.jp